

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk) , Soma YOKOI Drafting/Reo KIRIBUCHI



Monthly Theme

洗車場のあるガレージアパートGLB 青空の下でクルマを洗う快楽

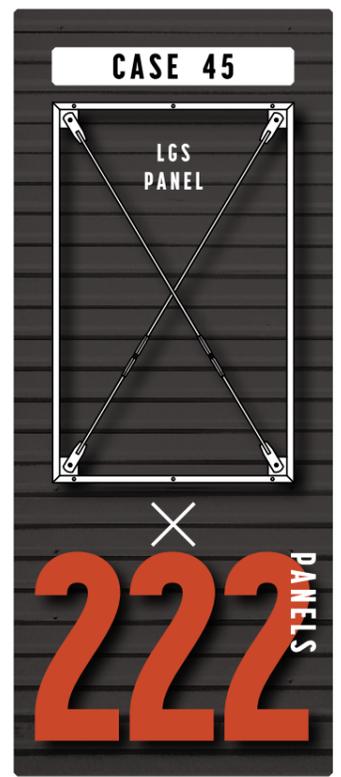
休日に愛車を洗いながら、愛犬までも洗ってしまおう。
クルマ好きにしか分からないこの大切な時間。
今回は実際に計画中のガレージアパートコミュニティをご紹介します。

洗車という行為は、クルマにあまり興味のない人にとっては面倒くさいもの。洗った次の日に不意の雨が降って嫌な思いをしたり、洗車代もばかにならない。そんなに歓迎すべき行為ではないかもしれませんが、しかし、その面倒くさい行為も、クルマをこよなく愛する人にとっては、週末の楽しみのひとつであったりします。抜けるような青空の下で、愛車のボディラインを肌で感じると。特に洗い終わった後、絞ったタオルでボディの水滴を拭き取る時など、まるでクルマが愛おしい人格を持ったものにさえ感じることもあるほど。

その時こそ、秀逸にデザインされた愛車のプロポーションを身体感覚にインプットする瞬間なのです。実際、乗車しているときは愛車のフォルムは意識できないですから、本当に貴重な時間なのです。
今回は、千葉市内に実際に設計しているガレージアパートにコミュニティ共用のハイウォッシュャー洗車設備を実装する実際例をご紹介します。よく晴れた週末の朝、順番を待つガレージアパートの居住者が、ごく自然に顔を合わせます。皆ガレージのシャッターを開き室内清掃などしながら、目と目があえば挨拶を交わ

す。同好の士ですから、賃貸住宅でありがちな住民間の垣根も取り払われています。また、その関係を上手に繋いでくれるのが愛犬の存在。実はこのガレージアパートはペット可の仕様となっているのです。クルマ好きは誰もが建築好き、そしてペット好き。そんなこと勝手に決めたら怒られそうですが、でも実際に、その傾向は強いかもしれません。
洗車の順番を待つ居住者同士が朝のコーヒーを分かち合ったりする。まさに理想的なガレージアパートコミュニティが、小さな洗車機ひとつで現出するかもしれません。

デイトナが提案する
新しい建築のカタチ



What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGS パネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分りやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

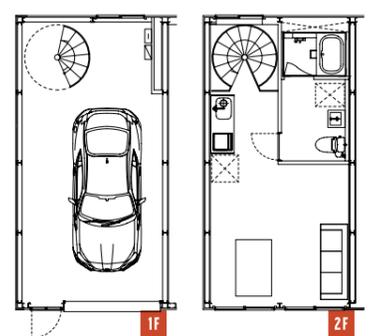
www.daytona-house.com

● INFORMATION
LDKinc.
デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本である CAR&HOME にて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデューサー LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表: 玉田 敦士
www.ldk.co.jp
03-6228-4933

FLOOR PLAN

今やすっかり馴染みになった、デイトナハウスの鉄骨ガレージアパート「GLB」の平面図。元々、鉄骨を露出させてビニールクロスを極力使わない仕様となっているので、無理なくペット共生アパートの設定ができます。ハードな印象を愛犬とインナーグリーンが和らげられることでしょう。



ガレージ内部のイメージも今や定番となった艶消し黒の鉄骨フレームがアクセントを作ってくれる空間。デイトナハウスオリジナルの棚システム「FASブラケット」が自分らしいディスプレイを可能にしてくれます。シャッター越しに見えるのは、併設されているバイク専用ガレージ。

GARAGE



敷地全体を斜俯瞰で見るカット。ドローンで見たイメージです。アプローチは、航空母艦の飛行甲板をイメージしたラインを引いています。出撃の時、そして一日の日課を終えて帰還の時、この飛行甲板はそれぞれのイメージで印象付けられることでしょう。毎日が実に楽しいですね。

EXTERIOR

Photo/Ken TAKAYANAGI Text/Atsushi TAMADA



2F OFFICE

2Fに設けた事務所スペース。ここから広いルーフバルコニーが広がっています。正面の壁はオーストラリアの塗料“ボーターズペイント”で塗装。日本の塗料メーカーにはない独特の中間色を艶消しで表現することができる優れたもの。無骨な艶消し鉄骨との相性も抜群です。ジャン・ブルーヴェの椅子と机が鉄骨天井に呼応して何ともカッコいい。



1. オリジナルでバウハウス風に作成した照明器具。ブレースのテンションをとるためのターンバックルを応用しています。2. ファサードのガラスウォールに面した吹き抜け空間。3. ラジエーター冷暖房機を装備することで、エアコンとは異なり空気をかき混ぜない空間を構築しています。観葉植物も実に嬉しい。



1F WAITING ROOM

1Fにある患者さん用のウェイトングルーム(待合室)。デイトナハウス特有のグレーウォールに1930年代のモノクロ写真。整形外科医院らしい人間の身体性をテーマにした写真選択に施主のセンスが光ります。窓面には布製のパーチカルブラインド。柔らかな光が患者さんにも優しい。



医院長の個室書斎。ダークグレーの壁面が精神を落ち着かせてくれます。ハーモニミラー社のイームズ・アルミニウムチェアの光沢がいかにも深い。



GARAGE & BALCONY

ガレージの二段駐車空間。ふわりと宙に浮かび上がったような、上段のフレアの曲線美と外壁面の鉄骨ブレースのコントラストが、毎日脳内を活性化してくれるのです(上)。2Fの広々としたルーフバルコニー。半外部空間として、いろんな用途に使えそうです。デッキ素材は木の粉を樹脂で固めたもの。メンテナンスフリーのデッキ材です(下)。



今回初登場のニューアイテム。デイトナハウスオリジナルのモノリス門柱。厚いアルミ板を水圧切削して角を出し、焼き付け塗装の上に文字を印刷して刻字する、ありそうでなかったシンプルで画期的な門柱です。



デイトナ不動産



二段駐車で愛車が眠る アーリーモダンな医療施設

昨年100周年を迎えたドイツモダニズムを代表する建築のバウハウス。そのデザイン基調に倣って、デイトナハウス×LDKの新境地ともいえる建物が誕生しました。

1919年、ヴァイマル共和国設立間もないドイツで生まれた文化ムーブメントともいえるバウハウス。1933年にナチス党によって弾圧中絶するまで、デザインと生活に関する独自のスタンスを発信し続けた運動体II学校です。その中心として象徴的に語られるのが建築分野の斬新さ。鉄とガラスと漆喰のシンブルな建築の意匠は、現在でもエネルギーを感じさせるものであり、100年が経過した建築とは思えません。完全な機械化、合理化に向かうのではなく、人間と技術の、良い関係がテーマの中心にあったからこそ、新鮮かつ懐かしい独特の建築意匠が誕生したのかも知れません。

今回ご紹介するのは、埼玉県鶴ヶ島市にLGSシステムで建築された医療施設の建物(MRI専用棟)です。特徴は、何と言ってもファサード面のガラスウォールの迫力。デイトナハウスオリジナルのスティールIXサッシで形成されたガラス面は、

一般のアルミサッシと違ってシャープで硬質な独特の雰囲気演出します。むしろ一点ずつ手作りされるロテクなサッシだからこそ、それが持つ風合いがバウハウスを想起させるのです。

そして、もう一つの大きな特徴それは裏面にある二段駐車ガレージです。このガレージ部分をチャコールグレーの漆喰外壁で形成することで、外観にリズムが生まれ飽きの来ない独特のカッコよさが現出します。夜は館中の様子が見えるような印象。壁に張った1930年代のグラフィックポスターの色遣いが、通りからもほのかに確認できる、間接的な差し色。も上質な建物の印象を決定づける重要な要素なのです。

DINOSAURBONE

螺旋階段を正面に見るガラスの吹き抜け空間。この建物の見せ場の一つです。北側の光のスクリーンに淡く照らされた、艶消しブラックの螺旋階段は、その素材感が最大限に表現されて素晴らしいものです。それはまるで、鉄の粒子が見えるような感覚。かけがえのない空間になりました。



INFORMATION

富田整形外科

埼玉県鶴ヶ島市藤倉 835-59
TEL: 049-286-221
tomitaseikei.byoinnavi.jp